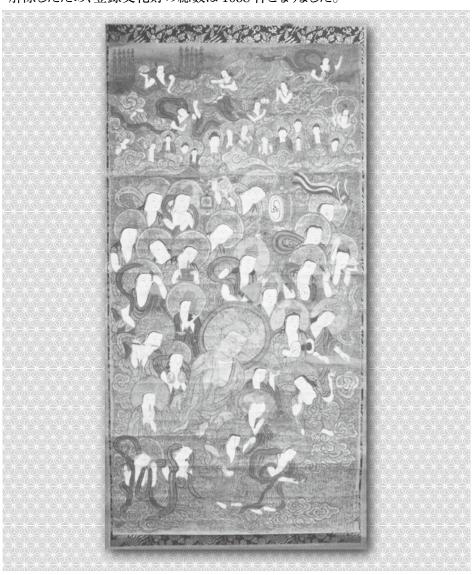
◆平成27年度新指定文化財◆

附明和5年得誉祐全極状1通 元禄8年裏貼書

江東区教育委員会は、文化財保護審議会(会長 中村ひろ子:元神奈川大 学教授)の答申を受け、新たに1件を指定し、2件を登録しました。また、2件を 解除したため、登録文化財の総数は1058件となりました。



江東区地域振興部

文化観光課文化財係 〒135-8383

江東区東陽4-11-28 TEL(03)3647-9819 http://www.city.koto.

 $\ell g.jp/$

- ○平成27年度
 - 新指定・登録文化財紹介
- ○文化財説明板の紹介 繁栄稲荷神社本殿
- ○新刊案内

東都三十三間堂旧記 六・七・附録 江東区文化財研究紀要 第19号

- ○平成28年度芭蕉記念館特別展
 - 「芭蕉と蕪村
 - ・山寺芭蕉記念館の名品-」
 - ◇「芭蕉の人生と旅」
- ○江戸前の歴史を語ろう 史料に見る「江戸前」とは?
- ○文化財まめ知識7 江東区内の馬頭観音
- ○区役所2階

会で使っている製品やそれを造る技:

して、

いずれ文化財になるかもしれま

現代を象徴する文化的所産と

支え、形作った有形無形のもので、 せん。文化財とは、その時々の社会を

そ

時代の歴史を知るためには、

欠かす

ーション展示予定 情報ステ

きた文化的な所産、

すなわち、も

ていくうえで、さまざまに生み出して

人々が生活・仕事・信仰など、

や″わざ″

などを言います。

現代の社

です。 といえます。 化財が多く残されています。 に譲りますが、 様々な情報が盛り込まれ、 ました。図には、当時の信仰に関わる 320 年ほどが経過しているにも 化財となった元禄8年 紙本着色阿弥陀二十五菩薩来迎 上の写真は、昨年度に区指定有 江戸時代中期に描かれ、 比較的良い状態で残されてき 詳細は、 区内にはそのような文 次ページ $\begin{pmatrix} 1 & 6 & 9 & 5 \\ 6 & 9 & 5 & 5 \end{pmatrix}$ 貴重な資料 への解説

以

来

図

か

文化財として登録・指定し、後世の人々

伝えられてきた文化的所産を、

に伝える必要があるのです。

形文

0)

過ぎ去った歴史のなかで、 ことができないものです。

先人が生み そのため、

心をおもちいただければと思います。 地域の歴史を語る文化財に、 ぜ ひ

文化財って何?

【有形文化財 (絵画)

附 明和5年得誉祐全 極 状っぱがらいわ とくょ ゆうぜんきわめじょう 元禄8年裏貼書 紙本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図 1 通

来迎図です。 死を迎えさせるために制作されたのが 来ることで、 を極楽浄土に往生させるために迎えに 来迎とは、 の旧家に伝わる掛軸の来迎図で 臨終間際の人に安らかな 臨終の時に仏がその人 亀戸9 個人蔵

1 本図は、 その前に蓮台を持つ観音菩薩は、画面中央に阿弥陀如来像



二十五菩薩像(部分)(略図中の⑥)

(4)







き込まれた無量寿経 「明蓮社顕誉祐天」の自署と花押および地に書

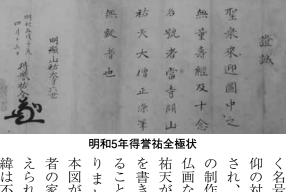
極状によって、これらが祐天の自筆で 右下には「明蓮社顕誉祐天」の自署と自署と花押(④)があります。また、 十回書写した十念名号と「祐天」 <u>(5)</u> が記されています。

別紙の

十念名号(部分)と祐天の自署と花押

肉身を胡粉、条帛・天衣・光背を金箔身・衲衣・光背を金箔押し、菩薩像ののうえ こうはい う経文を墨で書写しているのが特徴で 天衣・雲などに隙間なく無量寿経とい菩薩像の肉身を除いて、地・光背・衲衣・ 押しとし、 地に雲を金箔押し、 を描いています。 二十五菩薩像の合計二十七体の菩薩像 そして周囲に楽器を奏で、 彩色を施しています。 は円顔であり、 の系統をひくものですが、菩薩像の顔 本図の左上には 2 阿弥陀如来像の表現は正統な仏画 と合掌する勢至菩薩像 部の像の着衣に朱・緑の やや趣が異なります。 彩色については、 「南無阿弥陀仏」を 阿弥陀如来像の肉 阿弥陀如来像と 舞踊する <u>(3)</u> 茶

> 真享3年 て本所牛嶋 受けました。増上寺などで修学した後、 元年(1711)には増上寺36世とな よって人々に教えを広めました。 を巡ったといわれ、 く尊崇され、 社顕誉。将軍家から庶民に至るまで広 の浄土宗の僧で、字は愚心、号は明蓮 あることが証明されています。 (1637 + 1718)大僧正位に進みました。 (墨田区) 大奥では特に厚い帰依を 1 6 8 6 名号の授与などに に隠棲し、 は、 増上寺を出 祐天の書 江戸時代 祐天 玉



を書き入れ

祐天が名号 仏画などに の制作した

りました。 ることもあ

緯は不明で えられた経 者の家に伝 本図が所蔵

> うかがえる資料です。 江東区域の旧家の信仰の 媏

0

また、 あり、 ては加藤信清 (1734) 平安時代までさかのぼり、 郭線ではなく、 輪郭線を表現していますが、 としては早い時期の作例といえます。 るのに対して、本図は17世紀の制作で と考えられます。絵を経文で描く例は すのかは不明ですが、本図は遅くとも 菩薩の着衣などの面に隙間なく経文を や他の絵師の作品が18世紀の制作であ の作品などが知られていますが、 示すのか、 れています。これが来迎図の制作年を 書写しており、 元禄8年(1695)には制作され 一元禄八乙亥歳」という年月日が記さ 裏面に貼紙があり、 現存する文字絵の多くは文字で 近世における文字で描かれた絵 経文が書写された日付を 1734 5 大変珍しい作例です。 地・光背・雲や如来 「六月二十五 近世にお 1 8 1 0 本図は輪 日

登録文化財

仰の対象と く名号は信

他者

宇田川家文書 有形文化財 (古文書) 4 2 7 点

た文書群です。 1 8 6 5 ります。 昭 東 一砂に 和 初期の文書です ある宇田川家から寄贈され 宇田川家は、 1 8 6 8 東陽 4—11 文書群の の文書が2点 江戸時代以来 大半は明 28 慶応年間 江 東区

を

どを勤め、寄贈者の曽祖父安太郎氏は の旧家で、 あったことがうかがわれます。 砂村養魚株式会社の起業に関わるな の祖父啓輔氏は砂村村長、 力農民であったと思われます。寄贈者 両名とも地域社会の中心的人物で 八郎右衛門新田における有はちろうえもんしんでん 砂町町長な

治 30 年 煉化石製造株式会社の設立・経営に関 のなかには、砂村養魚株式会社や砂村 女8の記載があります。宇田川家文書 みられ、 は「宇田川煉瓦製造所」という工場が 養殖も行っていました。また、明治37 煉瓦製造業などを営んでいました。 する史料が含まれており、 魚業では、川魚の養殖のほか、海苔の ことができます。 有力者の会社経営の一端をうかがう 宇田川家は、 1904 (1897)、職工数は男14 持主は安太郎氏、 刊行の『工場通覧』に 近代になって養魚業や 創業年は明 近代の地域

等府區畫蘇啟郡村大田宮海南縣 四西五政金地、致土又 当在社,資序在機額八三萬四十五

宇田川家文書

勤めていたことから、 同氏が東京府会議員・東京市会議員を 政に関する史料が含まれているほか、 を勤めていたことから、砂町地域の行 の行政に関連する史料も含まれていま また、 啓輔氏が砂村村長・砂町町 東京府・東京市 長

宝篋印塔 【有形文化財 う (**残**んけつ (歴史資料) 寛永11年在銘

です。開基は江戸幕府四代将軍徳川(1658)に創建された日蓮宗寺院 この宝篋印塔 浄心寺は江戸時代前期の万治元年じょうしんじ 1 6 5 6 明暦2年没)です。 平野2-4-25 浄心寺 (残欠)は、浄心寺内



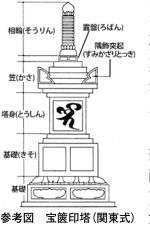
宝篋印塔(残欠)寛永11年在銘

その他にも別の宝篋印塔の部材から ども確認されています(参考図参照) 失われており、 号や院号などの刻銘が確認されます。 にある寺務所の中庭にあります。 の部分には寛永11年 (1634) 現在、 笠や塔身に相当する部分が 各部分で欠損や剥離な の年

> 推定されます。 ている部分は、 ため創建当初 補っていることが確認されます。 (寛永11年)から残され 相輪及び基礎の一部と その

ます。 建以前より当地にあった可能性があ 所から移されたか、もしくは浄心寺創 浄心寺が創建された万治元年より古 そのため宝篋印塔 方、刻銘にある寛永11年の年号は、 (残欠) は、 他

それ以外の部分も多くは江戸時代の宝 び基礎の一部は江戸時代初期に遡り、 歴にも不明な点が残りますが、 このように失われた部分が多く、 相輪及 来



塔身(とうしん)

基礎(左側面)の刻銘「寛永十一」の 刻銘が確認されます。

印塔の特徴を残す貴重な歴史資料の うに宝篋印塔(残欠)は、 篋印塔の特徴を示しています。このよ つと言えます。 近世の宝篋

無形文化財 (工芸技術)

木工 木工 (曲物) (箱風呂) 保持者 保持者 和田 吉野道太郎 重男

有形文化財 (建造物)

名称変更

深川不動堂旧本堂

富岡1-17-13 深川不動堂

所在地変更

(史跡)

伊豆長八宅跡

新大橋2―5~3―5

計 報

- 技術) ご逝去されました。 男氏は、 江 東区登録無形 箱風呂」 平成27年1月13 文化財 保持者和 $\widehat{\mathbb{I}}$ 日 \mathbb{H} 芸 に 重
- 技術) 江東区登録無形文化財 ご逝去されました。 郎氏は、 「曲物」保持者吉野道太 平成27年12月13 (工芸 H に

をお祈り申し上げます。 ここに慎んでお二方のご

冥

文化財説 明板の紹介

稲荷神社本殿

内の参道脇です(地図参照)。 平成25年度に江東区指定有形文化財 化などを紹介しています。このたび、 説明板を設置し、 た。設置場所は、 の文化財説明板を新たに設置しまし 江東区指定文化財の所在地に文化財 (建造物)となった繁栄稲荷神社本殿 文化財係では、 繁栄稲荷神社の境 ゆかりの歴史や文 江東区登録史跡

祀ったのが始まりとされます。現存 木場の別邸に伏見稲荷から分霊して 大丸)が宝暦7年(1757)に深川 する本殿は安政2年(1855)の 繁栄稲荷神社は、呉服商大丸屋(現





移築されました。 丸に返還され、 されたため、関東大震災と戦災を免 青山邸 (現根津美術館敷地内) に移築 示しています。 細部に江戸末期の意匠の特徴をよく 絵様が施され、 造建築です。向拝(正面の屋根を前 れました。昭和36年(1961)に大 に大丸と親交のあった根津嘉一郎の の彫物が付けられています。装飾の 向拝正面の梁には渦を巻いた細かな に張り出した部分)は装飾をこらし、 江戸大地震後の再建と推定される木 明治4年(1911 その上には龍と人物 旧地に近い現在地に

ご覧いただければ幸いです。 説明文も併記しています。文化財係 ではこれからも文化財説明板を設置 けるように、この説明板には英語の していく予定です。 なお、 外国の方にも読んでいただ 散策の際などに



新刊案内

いたしましたので、お知らせいたしま 東区文化財研究紀要 三十三間堂旧記 教育委員会では、このたび 六・七・附録」と「江 第19号」を刊行 「東都

東都三十三間堂旧記 六・七・附録

草に造られ、のち元禄14年(1701) を模して、寛永19年(1642)に浅 録です。京都の三十三間堂(蓮華王院 に深川に移転しました。 深川にあった三十三間堂に関する記

います。

記されています。 をつとめた鹿塩氏による堂の再建や運 7・附録で構成され、6・7には堂守 続くもので、最終巻となります。6 本巻は、すでに刊行済みの1~5に 附録には同家の来歴や系図などが

間堂関連記述も掲載しました。 また、参考資料として他資料の三十三



[規 格] 【価格】1000円 B 5 判、 66 頁

『江東区文化財研究紀要 第十九号』

にあった加賀藩邸の絵図面を紹介して 沢市立玉川図書館所蔵の史料から区内 瓦製造と多様な内容で、史料紹介は金 南部の再開発、後期の竪川での川ざら を内要とする雑誌で、本号には3本の いをめぐる動向、さらには明治期の煉 論考と1本の史料紹介を掲載しました。 論考は、江戸前~中期にいたる深川 江東区の歴史・文化財の研究や報告



規格 【価格】700円 B 5 判、 71 頁

(頒布場所

こうとう情報ステーション 文化観光課文化財係 (区役所4階32番 (区役所2階

中川船番所資料館 深川江戸資料館 芭蕉記念館 (大島9-(白河1-(常盤1-6 28

15

【問合せ】

文化観光課文化財係

(3647)9818

平成28年度芭蕉記念館特別展

◇「芭蕉と満村 一山寺芝蓮就食館の名品—」

「逆道の人生と於」

平成28年4月28日(木)~6月12日(日) -

します。 を記念して、 館35周年と、与謝蕪村の生誕三〇〇年今回の特別展では、芭蕉記念館の開 山形市)が所蔵する名品を一堂に展示 山寺芭蕉記念館 (山形県

芭蕉と蕪村の作品を紹介します。 ここでは、 出品予定の資料の中から、

①松尾芭蕉筆 「馬に寝て」 句文懐紙



部に月僊(1741~ 描いた芭蕉坐像を配しています。 芭蕉の真蹟を長幅の上部に貼り、 1 8 0 9 下 が

ものです。月僊は円山応挙に師事した 小夜の中山に至った時の感懐を述べた。 ざらし紀行』の旅の途中で、東海道の 重県伊勢市) 江戸時代後期の画僧で、 句文は貞享元年(1684)八月、『野 の寂照寺の住職をつとめ 伊勢山田

②松尾芭蕉筆 会式懷紙

俳席における連衆の心得を書いたも

麗食養 遷遺墨』に載るの絮柳編『俳 ので、 間的礼儀を省略 らない程度に世 席では無礼にな えられます。俳 会式の原本と考 1 8 6 0 万延元年 「 俳ぃ゙序

但出

F

又日

声をかけた者の句を採用する、 複した場合は、 心得が記されています。 先する。ただし、 句並びの遠い作者を優 同時の場合は、先に などの

③内藤丈草本『おくのほそ道』

持つ丈草 (1662~1704) 元禄十年(1697)二月の奥書を



素龍の清書本自筆写本で、 の出で、隠居 す。丈草は武家 に筆写されたも 西村本)を元 と思われま

> ④与謝蕪村筆「おもだかの」自画賛 出家後に芭蕉に入門しました。

上自 …

世を継ぎ、また南画(文人画)の大成 ました。 興の祖として、後世まで高く評価され 蕉風の復興に取り組み、江戸俳諧の中しょうよう 者としても知られています。晩年には 時代中期の俳人・画家で、夜半亭二 与謝蕪村 (1716~83) は江戸

品です。 蕪村の筆跡の特徴がよく表れている作 暦~明和年間 沢瀉は水田に生える多年草で、 $\begin{array}{c}
1\\7\\5\\1\\\\\\7\\2
\end{array}$ 0 宝.

する。付句が重

⑤与謝蕪村書簡 (仏心宛) (仏心宛)

五月、 う人物に届ける際に添え お礼として「仏心」とい 建立しました。この書簡 の九月二十一日に石碑を 興」すべく、芭蕉を慕っ 福寺境内に「一草室を再 村(京都市左京区)の金 発起により、 て写経社を結成し、翌年 安永五年 石碑の拓本を牛蒡の 蕪村は樋口道立の 洛東一乗寺 1 7 7 6

> り物」への出句と費用分担を依頼して た書状で、近々出版する「さくらのす います。

⑥与謝蕪村・鈴木月居筆 二見文台

書き継ぎ、その次第で「西 行上人のたものです。後に門下の月居が脇句を 天明二年(1782)作の発句を記し 合せたまひしうつせ貝も」は、西行 蕪村が依頼されていた文台の裏に、 0



芭蕉の 露ふらで」は、 給ひし硯の石も ををきなの拾ひ に拠り、「ばせ (『山家集』下)

と記しています。 かと拾ふやくぼき石の露」に拠った、

「二見硯

旅など、芭蕉がたどった人生を、 芭蕉記念館の所蔵資料をもとに、伊賀 資料や芭蕉の作品から見ていきます。 くのほそ道」をはじめとする各地への この他、中央の展示コーナーでは、 |野での誕生から深川での生活、「お 関連

【問合せ】芭蕉記念館

03 (3631) 1448

江戸前の歴史を語ろう

史料に見る「江戸前」とは?

ます。

江戸前という言葉はよく耳にしますが、「江戸の流儀、気質。江戸好み。江戸江戸前という言葉はよく耳にしますが、「江戸の流儀、気質。江戸好み。江戸紅戸山上のります。
一般的には、江戸前という主葉はよく耳にしますが、「江戸の流儀、気質。江戸好み。江戸好きで、江戸前という言葉はよく耳にしますが、「江戸の流儀、気質。江戸好み。江戸江戸江戸前という言葉はよく耳にしますが、「江戸の流儀、気質。江戸好み。江戸江戸江戸前という言葉はよく耳にしますが、「江戸の流儀、気質。江戸好み。江戸

- 、江戸前の範囲を考える

出の『日本国語大辞典』を見ると、「(江田の『日本国語大辞典』を見ると、「(江戸の前)の意。「前」は、にわ(漁場)の意とも)江戸湾(東京湾)近海をいう」とあります。また、「江戸の近海でとれた、鮮度の高い魚」ともあり、江戸には、欠かすことのできない場であったことがわかります。

では、ここでいう江戸前とは史料に では、ここでいう江戸前とは史料に では、ここでいう江戸前とは史料に では、ここでいう江戸前とは史料に が幕府の肴役所に提出した文書が か田原町・本船町・本船町横店・安針 小田原町・本船町・本船町横店・安針 小田原町・本船町・本船町横店・安針 小田原町・本船町・本船町横店・安針 が幕府の肴役所に提出した文書が あります。

(史料1)

(前略)

来り候(後略)

品川の 東は下総海と呼んだことがわかりま を見通した線の陸側 崎沖の一番棒杭と深川洲崎沖の松棒杭 史料によれば、 この史料を見る限り、 南は羽根田 日 本橋魚市場沿革紀要』 江戸前とは、 (羽田) (図1参照) 海、 江戸前とは 、深川の 品川洲 で、

「品川大森羽田海苔場処絵図」(大田区立郷土博物館所蔵)をもとに作成

そもそも、日本橋の四組肴問屋は、 一日本橋魚河岸」でも知られる通り、 「日本橋魚河岸」でも知られる通り、 江戸城や江戸市中への鮮魚流通の核となる存在で、幕府と密接な関わりを なる存在で、幕府と密接な関わりを すが、どのように生まれたのかは不明 ですが、何らかの必要に迫られた幕府 は、自らその範囲を確定できず、最も は、自らその範囲を確定できず、最も は、自らその範囲を確定できず、最も は、自らその範囲を確定できず、最も

戸の範囲を確定しています。 で示した「江戸朱引図」を作成し、江で示した「江戸朱引図」を作成し、江で示した「江戸朱引図」を作成し、江の場合も不明確だったようで、前年の文政元年に朱引の線に、範囲といえば拡大を続け

を及した可能性があるのです。
に江戸時代中期以降は、商品経済の著に江戸時代中期以降は、商品経済の著に江戸時代中期以降は、商品経済の著に江戸時代中期以降は、商品経済の著に江戸時代中期以降は、商品経済の著とい発展によって、魚介類の範囲が明確ところで、「江戸前」の範囲が明確ところで、「江戸前」の範囲が明確

堀り (漁漁 を阻止するため、 県浦安市沖) 浦の範囲は昔から落の澪から貝ケ澪ま 訴えたものでした。そのなかで、 堀江両村から自浦を守るため、 たと主張しています。すなわち、猫実・ での間であり、貝ケ澪から西側 の史料は、船橋(千葉県船橋市) う言葉が出てきます(図2参照)。こ 保15年(1730)の史料には 化したと考えられます。 江戸前」 みよよりかいがみよ迄を船橋浦と 北の境に至るまで江戸前と唱えてき 前と申来候御事」と たとえば、『船橋漁業史』掲 かいがみよより、 (千葉県浦安市) の両村の行動 への侵入をはかった猫実村 とすることで、 西側の羽田浦に至る範 は羽田浦(大田区羽田 船橋の猟師が幕府に はねだ浦迄を江 「江戸前」と 違いを明確 貝ケ澪 載 「おち (千葉 船橋 の享 0) 浦

1854)の史料にも「(前略) 江戸また、『品川町史』の安政元年

行っていたのは、 ことがわかります。 料に見る「江戸前浦一円」で貝巻漁を 市川 このように、 船橋 江戸川 江戸川区 汀東区 、落の澪 深川 船橋浦の主張にある貝 猫実·堀江 . 松棒杭 深川南部にあった深 千葉 品川 ちなみに、この史 −番棒杭 大井御林町 大森村 羽田浦 (東京湾) 羽田 海岸線・図中の位置関係はあくまでも目安

も異なります。 東側を「下総海」 広がっていることがわかります。 は、 に、このことは深川洲崎沖の松棒杭の (史料1) に比べ、その範囲がかなり 時、 日本橋肴問屋が肴役所に提出した と呼んだという点と さら

根川

(江戸川)

の貝ケ澪を指している

が大森村 巻漁相働候 ケ澪迄之間

(大田区大森)の前にあった

(後略)」とあり、

「江戸前

(中略)

江戸前浦

一円貝

一之澪杭跡

(羽田浦の北境)

から旧利

ることは難しいのかもしれません。 考慮する必要があり、この史料をもっ ケ町との漁場争いでの主張である点を は船橋浦と猫実・堀江、そして深川11 識は一般的だったのでしょうか。これ て「貝ケ澪」を「江戸前」の東端と見 貝ヶ澪が江戸前の東端との認

に見る江戸前

に関する記述を紹介しましょう。 た「魚鑑」という史料から、 次に食文化の観点を踏まえ、天保2 (1831) に魚類についてまとめ 「江戸前

なのミにあらず、 諸魚神奈川沖よ

いな

(鰡の幼魚)

の項

りこなたに生るもの、 「いわし」の項 称て賞美せぬものぞなき 所謂江戸前と

処々海浜多しとい

へど、

東武の内海

産、所謂江都前にて味ひ美く、

他

所の産に勝れり

東都ハ芝浦及中川に産るもの上品な「はぜ」の項 三年を過るもの味ことによし

「はまぐり」の項

西側を「江戸前」としている点

之澪杭跡より(中略)東ハ利根川尻!のをよくいまとりでしませい。 なみといまとり 正の なみといまとり でいる はいまい 東ハ利根川尻!

東ハ利根川尻貝

江都品川これに次ぐ 勢州桑名を名産とす。 紀 州 和歌 浦

「かき」の項

といへども、その味ひ極て美し、 ず、江都海自然生するもの状小なり 江都海に一月ほど活おけバ美味を生 なりといへども味よからず、それを 尾張・武蔵等の海、 安芸広島・播磨・紀伊・ の水の肥へたるがゆへなり れ常の食料なり、下総銚子のもの大 蛎田の 和泉・三河 種、こ そ

います。 と比べ、 杭 奈川本町付近) の神奈川宿 ています。 沖から以北で生まれたものを指すとし ると、「江戸前」の魚類とは、 のです。そのうち、「いな」の項を見 る場所など、様々な情報をまとめたも 魚介類について、 この史料は、江戸の食文化を支えた (羽田浦の北境)を南限とする見方 かなり南側の海域まで含んで 神奈川とは、 (現在の横浜市神奈川区神 のことで、 味の良し悪し、 東海道3番目 先の一番棒 神奈川 捕

品川 内海の産」をいわゆる「江都前」とし、また、「いわし」の項では、「東武の 都海」との表現が使われています。こ さらに の項では「東都」として芝浦 はまぐり」 「かき」 0) の項では の項では 江 都

> と思われますが、興味深いの ざまな場面に登場し、 すなわち、 囲と見ているようにも感じられます。 味わいが極めて美味しいこと、 ケ月ほど活かしておけば、 主張された「江戸前」の範囲とは異な 水が「肥へ」ているためとあります。 ても味はよくないが、江戸前の海に1 このように、先に見た争いの過程 子の牡蠣に関する記述です。 「江都 水が「肥へ」ている海域をその範 また江戸前のものは小さくても、 海 「江戸前 とは、 異なる基準で語 の言葉は、 美味になる 前 は、 それは と同 さま 下総

ません。 海です。 川 で豊かな海であったことは間違いあり など、多くの大河川が流れ込んでいる 範囲は別にしても「江戸前」 中川、 江戸庶民自慢の魚介類が豊富 江戸川、 目黒川、 多摩 は、 隅 Ш

られていたことがわかります。

※1棒杭とは、船が通行する澪の いてさらに語りたいと思います。 今後、 を示す標示杭のこと。 他の史料も含め、 江 戸 前 場 に 所 つ

2 思われますが、 の位置は若干ずれているようにも 「一之澪杭跡」と図1の その背景につい 番 棒杭

*

(文化財主任専門員 出 [口宏幸)

文化財まめ知識り 9 の馬頭観音

観音菩薩です。他の観音菩薩が慈悲のかるのはほどの面多臂(複数の顔と手・腕を持つ)の馬頭観音とは、頭上に馬頭を戴く多 作が確認されますが、古代・中世を通 仏として信仰されるようになりました。 頭観音は馬頭を持つことから馬の守護 赤色の憤怒の形相となっています。馬 形相であるのに対し、馬頭観音の場合、 馬頭観音像は、 既に奈良時代から製 頭上に馬頭を戴く多

馬の供養や無病息災とされました。 に造立されました。それらの目的は、 堂が建てられ、 時代には各地に馬頭観音を本尊に祀る また馬頭観音像が路傍

と伝えられる供養塔 が登録文化財となっています。 化財となっています。さらに馬頭観音 うに刻まれたもの以外に、「馬頭観音」・ た。現在、江東区では、4件が登録文 んだものも造られるようになりまし 馬頭観世音菩薩」と石材に文字で刻 こうした馬頭観音の形は、 (破損仏) 彫刻のよ も1件

彫刻の馬頭観音像

は、清澄庭園(清澄3・①)・中央寺(南現在、彫刻型の馬頭観音は、区内で 砂4・② の二件が登録文化財となっ

ています。

突起を確認することができます。 前で合掌した形で、左の上腕には輪宝これらの馬頭観音像は、いずれも胸 (法具)を持ち、 頭頂部には、 馬頭の

ます。 弓・数珠・宝剣などを持つ場合もあり それぞれ見られます。これら以外には 方で右の上腕には金剛杵 斧(武具・②)などの持ち物が (法具・



たのは江戸時代以降のことです。江戸 じ、その作例は少なく、信仰が広まっ

①馬頭観音供養塔 安永3年銘 清澄庭 清澄庭園

②石造馬頭観音坐像 中央寺

文字として刻まれた馬頭観音

2)・妙久寺(北砂2・③)にそれぞ まれたものがあり、 れ残されています。 方、「馬頭観音」などの文字が刻 明治小学校 (深川

大島・砂町地域に輓馬業(馬による輸 (③) が残されているのは、戦前の亀戸・ その内妙久寺に「馬頭観世音供養塔」

> ます。 たことが関係するものと考えられてい 送業)や搾乳業に携わる人々が多かっ



妙久寺

馬への無事

③馬頭観世音供養塔昭和3年在銘 妙久寺

馬頭観音の伝承を持つ供養塔 供養を祈念して造立されたものです。 彫刻・文字のいずれも、

御利益があると言われました。 馬頭観音で、失われた頭部をさすると 補修されています。言い伝えでは元々 が著しく頭部が失われコンクリートで 9)の供養塔(破損仏)(④)は、 供養塔を紹介します。浅間神社 さて、最後に馬頭観音の伝承を持つ ***** (亀戸



④供養塔(破損仏) 伝馬頭観音 浅間神社

※見学の際には供養塔へ触れないよう ぜひ注目してください。 皆様も寺や神社で見かけ お願いいたします。 功刀俊宏) た時には、

(文化財専門員

開します。

情報ステーション展 示予定

(4月上旬~下旬

真空管ラジオ

とができますので、背 昭和14年に発売されたようです。 用されていたものです。商品名は ケースは 360 度全方向から見るこ オ放送受信機で、 会社(大正期創業) "TELEVIAN (テレビアン)"で、 東京の大森にあった山中電機株式 深川の寺院で使 製の真空管ラジ 展示

などをじっくり観察し 面の真空管の配置状況 てみてください。



ジェラール瓦 〈5月上旬~下旬〉

これに似せて日本の瓦職人が製造した ています。以上のほか、 部やその周辺で、ジェラール瓦4点と、 です。江東区内では、亀戸富士塚の頂 人のアルフレッド・ジェラールが創業 〝模倣ジェラール瓦〞7点が発見され ジェラール瓦は、 横浜山手の工場で製造した西洋瓦 明治期にフランス

